

たっぷり楽しんだ水・プール遊び

長梅雨が終わった途端、異常なほどの高気温となった今年の夏。保育園では連日子どもたちは水遊び三昧でした。

つくし組さんたちはビニールプールの中にどっかり座って遊んだり、小さいプールでは物足らず、すみれ組さんにたちが入っている大きい方のプールに出かけて一緒に入ったりと行動範囲を広げています。

たんぽぽ、すみれ組の子どもたちはプールで楽しんだり、水どろ遊びを楽しんだりと自由になった体で思い切り楽しんでます。幼児クラスの子供たちは、プールの中で友だちと思いきいにごっこ遊びや、水中鬼ごっこ、潜りっこなどをうんと楽しんでます。本当に子どもたちにとって、友だちの存在は大きいなと見ていて感じます。

ここ数年9月になっても暑さがなかなか退かなくなってきているので、プール仕舞いを遅くして9月第2週までプールは残す予定です。



子どもたちに平和な世界を

今年の夏は、新聞やテレビ、ラジオで戦争にまつわる特集などが多く組まれているように感じました。戦後75年、戦争を体験した人たちも高齢となり戦争のことを語れる人がどんどんいなくなってきました。75歳以下は戦争を知らない世代です。政治の面でも保守、革新の枠を越えて戦争を経験した国会議員はこれまで「二度と戦争は起こしてならない、平和憲法を遵守すべき」と主張してこられました。今、戦後世代が増え、憲法解釈を変えて、他国への武力攻撃を可能にした集団的自衛権の容認など、再び戦争を可能にする道が作られて来ている。「戦後75年」の特集が多く感じるのはこうした過去の悲劇を忘れないよう次の世代へとつなげる努力をしているのではないと感じています。

8月6日の広島市の平和記念式典で小学生が「私たちの未来に、核兵器は必要ありません」「核兵器を無くすために必要なのは、私たち人間の意志です」と呼び掛けています。

広島市の松井市長も平和記念式典で、日本政府に核兵器禁止条約の締約国になるよう求めました。

ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）のベアトリス・フィン事務局長は「核兵器で人々を守ることはできない。日本は禁止条約に加盟し、一緒に核廃絶を進めるべきです」と呼び掛けています。唯一の被爆国であり、原爆の悲惨さや苦しみを体験している日本であるにもかかわらず、アメリカの「核の傘」を理由に、批准を拒んでいます。禁止条約の発効まであと6か国です。日本も早期に批准し、未来を生きる世界中の子どもたちが希望をもって生きていける社会を実現していくべきです。



「キンコンカンせんそう」

ジャンニ・ロリーダ（作） ペフ（絵） アサー・ビナード（訳）

二つの国が争い、そのうちどちらの国も武器をつくる金属がなくなって来た。そこでそれぞれのたいしょうたちは、金属を集めるために国中のベルを集めて「ドデカたいほう」を作るように命令をし、いよいよ巨大な大砲の威力を発揮する時が来たが…大砲から出て来たものは…。

玄関の平和文庫コーナーに展示しましたので、お子さんと一緒に読んでみてはいかが？